

6 将来の展望

1) 将来受けた教育の水準

日本の高校生の6割強は「四年制大学まで」と回答し、4か国の中で最も多い。米中の高校生の4割強は「大学院まで」（「修士」＋「博士」）と回答している。

「将来、どの程度の教育を受けたいか」との設問に対して、「四年制大学まで」と回答した者の割合は、日本61.6%、韓国54.7%に対し、米国と中国が35%にとどまっている。「大学院修士まで」の割合は、米中の25%に対し、日韓が1割未満となっている。「大学院博士まで」の割合は、米国18.1%、中国15.4%、韓国7.3%に対し、日本が2.1%と最も少ない。

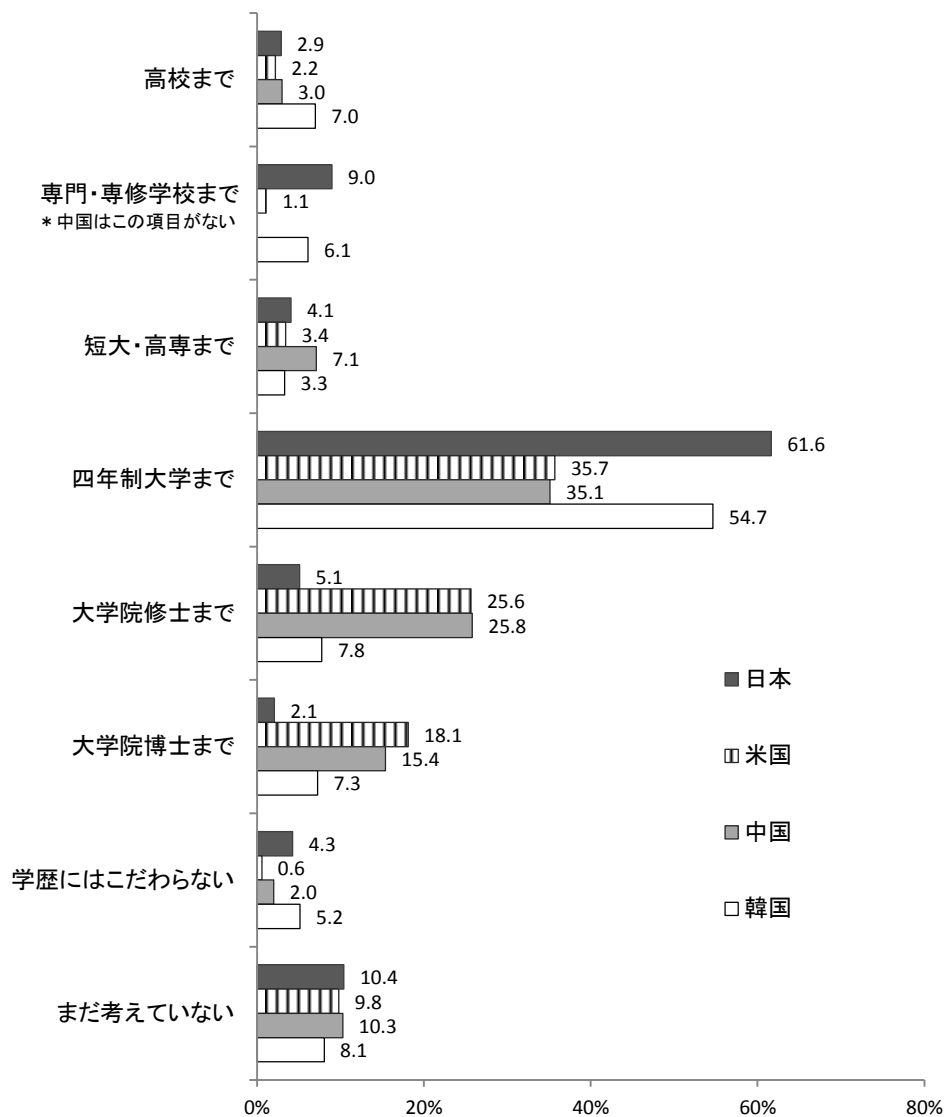


図 6-1 将来、どの程度の教育を受けたいと思いますか

2) 希望する職業の有無

将来希望する職業について、「だいたい決まっている」と回答した者の割合は、米国 75.9%、韓国 68.5%、日本 57.5%、中国 49.8%の順となっている。「まだ考えていない」は、日本が9.0%と他の3か国に比べてやや高い(図6-2)。

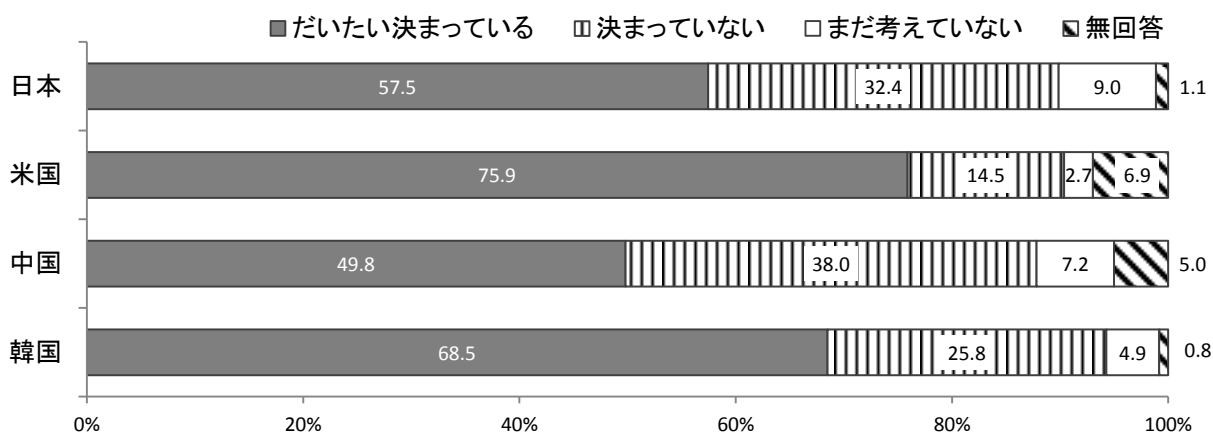


図6-2 将来希望する職業は決まっていますか

3) 人生目標

日本の高校生は、将来の目標について、「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」への願望が他の3か国に比べて低い。

「将来、どのような目標をもっているか」について、図6-3に示している10項目を挙げ、「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の4段階で回答してもらった。「とてもそう思う」と回答した者でみると、米国は、「安定した仕事に就くこと」「円満な家庭を築くこと」「自分の趣味を生かす暮らしをすること」「社会のために役立つ生き方をすること」「リーダーになること」の割合が高く、日中韓と大きな差がみられた。中国は、ほとんどの項目で米国に次いで高い。特に、「高い社会的地位に就くこと」が4か国中では最も高い。反対に、日本は10項目のうち、8項目の割合が4か国中最も低い。特に「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」は、他の3か国との差が大きい。韓国は、「安定した仕事に就くこと」「社会のために役立つ生き方をすること」の割合が4か国中最も低い(図6-3)。

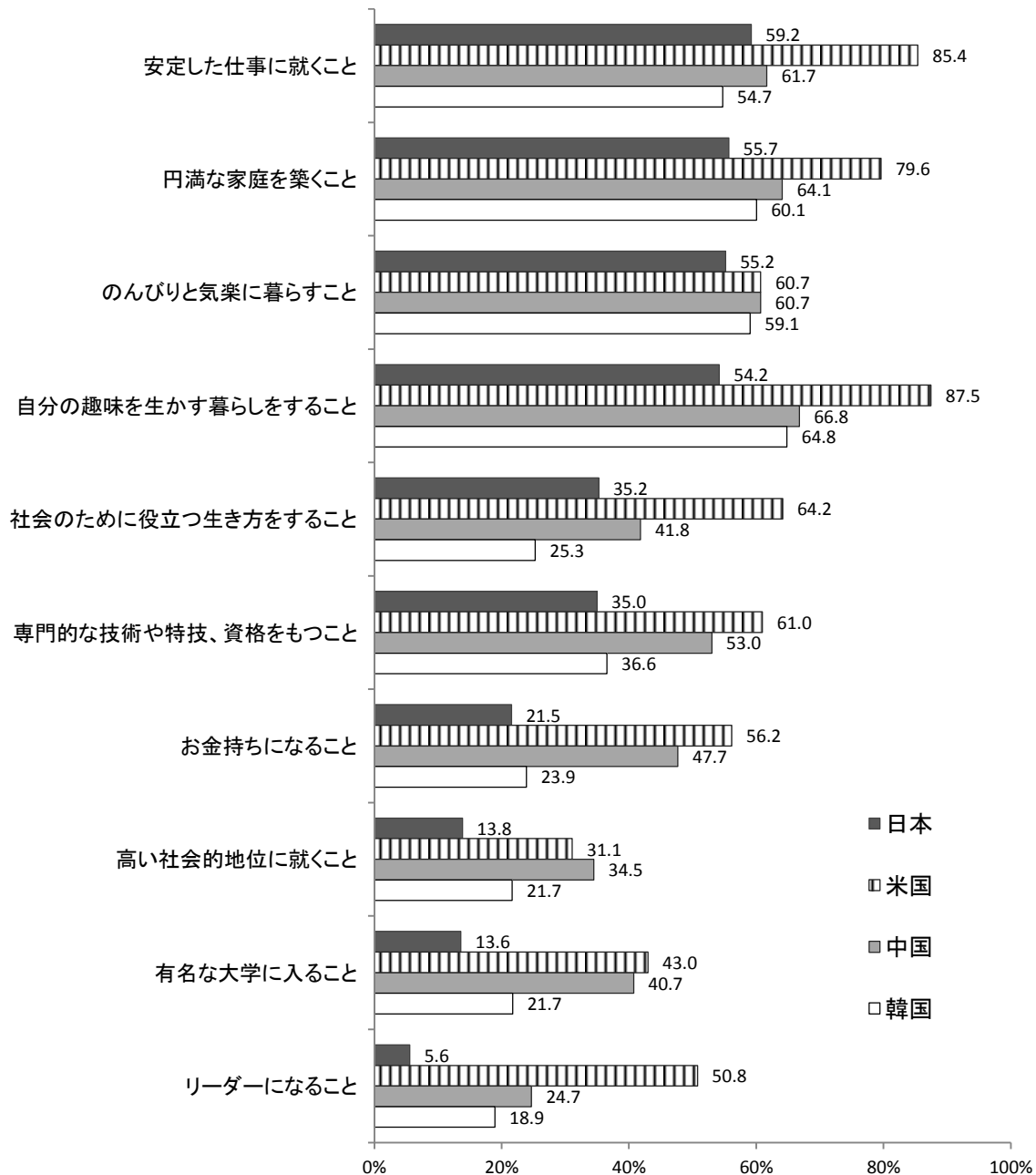


図 6-3 将来、どのような目標をもっているか(「とてもそう思う」と答えた割合)

上記の人生目標についての10項目を因子分析したところ、表6-1のとおり、2つの因子が抽出された。因子1は、「高い社会的地位に就くこと」「有名な大学に入ること」などでステータスを重視する「上昇志向」因子と名付けられる。因子2は、「自分の趣味を生かす暮らしをすること」「安定した仕事に就くこと」など個性や安定を重視する項目で、「安定志向」と名付けられる。この二つの因子得点の平均値を国別で見ると、図6-4に示しているように、日本と韓国は両因子とも得点がマイナスとなっている。特に、日本の「上昇志向」の得点が際立って低い。米国は二つの因子得点ともプラスとなり、しかも4か国中最も高い。中国は「上昇志向」が米国に次いで高いが、「安定志向」が日本に次いで低い。

表 6-1 人生目標についての因子分析

	因子 1 上昇志向	因子 2 安定志向
・高い社会的地位に就くこと	.855	.124
・有名な大学に入ること	.800	.110
・お金持ちになること	.743	.231
・リーダーになること	.669	.279
・自分の趣味を生かす暮らしをすること	.105	.743
・のんびりと気楽に暮らすこと	-.011	.686
・安定した仕事に就くこと	.243	.637
・円満な家庭を築くこと	.250	.625
・社会のために役立つ生き方をすること	.356	.528
・専門的な技術や特技、資格をもつこと	.368	.478
固有値	2.764	2.484
寄与率	27.6%	24.8%

因子抽出法: 主成分分析、回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法、抽出基準は固有値 1.0 以上

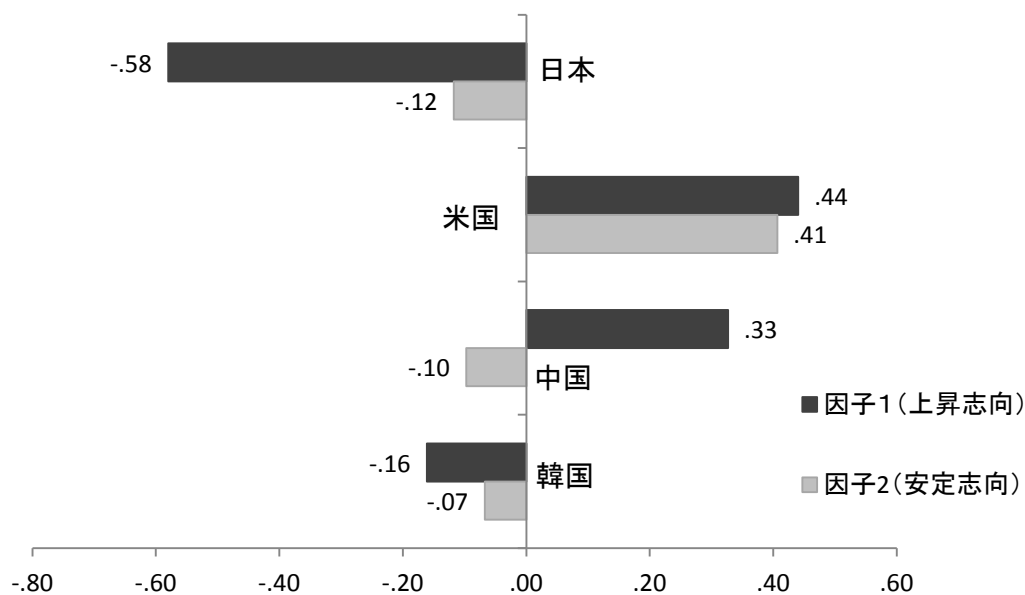


図 6-4 人生目標の因子得点の平均値